

## Café des open



## 三浦一族

Menu 第21回  
横須賀に伝わる  
和田義盛の足跡

文／谷合伸介（横須賀市立中央図書館 郷土資料室）

三浦一族のなかでも、和田義盛は各地に様々な逸話や伝承が残されている人物です。義盛は、武芸に秀で、源平合戦や奥州合戦などで活躍したことが知られていますが、横須賀市内にも義盛ゆかりの地と伝えられる場所が数多く残されています。

治承4年（1180）8月22日、三浦義澄や和田義盛らをはじめとした三浦一族の軍勢は、伊豆で挙兵した源頼朝に呼応し、箱根の石橋山に向け出陣しました。しかし、頼朝はこの合戦で敗北し、援軍に向かって同一族の軍勢も、合戦前に石橋山までたどり着くことができず、急遽三浦に向け撤兵します。途中、由比ヶ浜付近で平家方の畠山重忠らの軍勢と合戦となりますが、これを退け、三浦の地に戻ります。『源平盛衰記』によれば、

この時、義盛は馬の足場がよい衣笠城では、敵から攻められやすいため、要塞堅固な怒田城（ぬたじょう）に籠ることを一族の惣領三浦義明に献策したといえます。怒田城は、現在の京浜急行電鉄の北久里浜駅から京急久里浜駅に向かう途中の左手山側にあつたとされます。しかし、義明は世に聞こえ知れたる衣笠城に籠って討死すれば名誉な死となるが、怒田城のような人々が知らないような小城に籠

て打ち果てたとしても何の名誉にもならないとして、義盛の案を退け、自身は最後まで衣笠城に籠って戦い討死しました。

源平合戦時の義盛の伝承は他にもあり、江戸時代の地誌『新編相模国風土記稿』によれば、荻野の正蓮寺の裏山には「貝吹松」という古松があつたとされます。「貝吹松」は、義盛が畠山重忠と合戦を行った際に陣貝を吹いた場所と伝えられており、その近くに「しやむじ塚」といわれる古塚もあつたとされていますが、現在はこれらを確認することはできません。

三浦一族の本貫地であつた大矢部にも義盛に関する伝承は残されています。三浦氏3代の墓が残る清雲寺には鎌倉時代の作とされる毘沙門天立像があります。この仏像は、建暦3年（1213）の和田合戦の際、敵の矢を受けとめるなどして義盛を援けたとする伝承が残されてお

り、矢請けの毘沙門とも称されています。また、武の一騎塚は、和田合戦の際、義盛に従っていた武次郎という武士が一騎で鎌倉に駆け付け、その後戦死したことを哀れんだ村の人々がこの地に葬ったことからその名がつけられたと伝えられる場所です。その他、大矢部の薬王寺（現在は旧跡のみ残る）は、義盛が父杉本義宗と叔父三浦義澄の菩提を弔うため創建したと伝えられる寺院であつたほか、長坂の無量寺も義盛開基とされています。

一方、鎌倉時代の資料で義盛と横須賀との関わりが明確に裏付けられるのが、芦名の浄楽寺に安置される運慶作の5体の仏像です。そのうち、不動明王立像・毘沙門天立像の像内には銘札が納められており、そこには文治5年（1189）3月20日に義盛と妻の小野氏が発願し、

運慶と小仏師10人によりこの仏像が造られたことが明記されています。これら5体の仏像は、鎌倉前期の彫像として大変貴重で国指定重要文化財となっていますが、横須賀の鎌倉時代を知る手がかりとしても重要な歴史資料です。

さて、江戸時代の資料などには、義盛のもとに巴御前という女性が嫁ぎ妻となつたと伝えるものがあります。巴御前は、木曾義仲の妻でしたが、宇治川の合戦で義仲が源

義経らの軍勢に敗れ討死したのち、義盛の妻になつたと伝えられます。また、義盛と巴御前との間には、和田合戦で武勇を誇つたとされる朝比奈義秀が産まれたともいわれています。これらの逸話については、史料の信憑性が低く創作の可能性も指摘されていますが、市内には巴御前にゆかりがあるとされる地が複数残されています。秋谷には義盛が巴御前の菩提寺として建立したと伝えられる正行院、岩戸には巴御前のものとされる墓があります。また、『新編相模国風土記稿』には、大矢部村に朝比奈義秀のものと伝えられる城蹟があつたと記されています。

今回は義盛ゆかりの地とされる場所をご紹介します。横須賀には、これ以外にも義盛に関する逸話や伝承が残された場所がありますので、ぜひ調べてみてはいかがでしょうか。



怒田城跡（絵葉書）